

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『もったいないを活かす地域に根づく
持続可能な価値づくり』

活動団体の活動地域：熊本県あさぎり町

活動団体名：（株）あさぎり商社

中間支援主体名：（公財）地方経済総合研究所

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

町内の自然、文化等の地域資源によるもったいないを活かした地域経済循環

- あさぎり町の豊かな自然を活かしたグリーンツーリズムによる関係人口の創出・拡大
- 森林、竹林の資源化によるサステナブルな産業創成。
- UIターンにより人が集い、住民が支え合う場の形成。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

地域循環共生圏を支える**人材確保**と**稼ぐ仕組み**づくりのために、**共感と学び**の機会を多面的かつ重層的に提供し、自立可能な体制づくりに努める。

➤ ステークホルダー

運営主体：あさぎり商社
情報発信：あさぎり町商工観光課
企業参画支援：肥後銀行
学術研究連携：熊本県立大学
若手参画：南陵高校

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 事業のタネ①
「暮らす旅」隠れ里リトリートツアー
- 事業のタネ②
地域材による資源循環
- 事業のタネ③
住民が気軽に集まれる場づくり



写真：緑の流域治水スタディツアー



写真：ポラス竹炭



写真：場づくりイベント

地域の現状

➤ 課題

- ①人口減少・少子高齢化の進行
- ②宿泊施設の不足
- ③学校統廃合による若者の流出

➤ 資源

- ①豊かな自然（朝霧、白髪岳、田園、球磨川）
- ②グリーンツーリズムの聖地
- ③あいさつが飛び交うまち

2026年度末の状態目標**取り組みそうな事業を実際に始めてみる**

前年度までの活動内容を踏まえて生み出した新たなビジネスを創出し、事業化を行う。
形成した地域プラットフォーム活動を起点とし、検討した事業の地域での自走化を目指す。

2025年度末の状態目標**事業のタネに取り組み事業内容を磨き上げていく**

滞在型のあさぎり町体験ツアー（仮称）、森林の未利用材活用、自然共生と連携したワーケーションなど、事業のタネごとに計画を立案するワークショップなどの活動を行い、事業内容を磨き上げていく。

2024年度末の状態目標**地域のもったいないを活かした地域経済循環をつくりだすための
ステークホルダーを巻き込んだ状態の体制づくり**

地域間、ステークホルダー間の連携を強化し、それぞれが主体的に協働する体制づくりを行う。また、同町に関係のある企業など、町外のプレーヤーも巻き込むことで様々な分野へ活動の幅の可能性を広げていく。

■見立て

➤ 得意な点

商社の各部署に地域おこし協力隊が配属されているため、地域おこしの意欲が高く、精力的な活動が実施できる。

➤ 不得意な点

域外から観光客や移住者を引き込むための情報発信についてのノウハウや、事業化のノウハウが不足している。

■打ち手

- 体験型のツアー商品の開発や宿泊施設の拡大など、域外から観光客や移住者を引き込むためのコンテンツづくりを活動意欲の高い地域おこし協力隊を中心に据えることで取組を加速化させる。
- ノウハウが不足している分野について、先行事例を調査し、有識者を紹介することで助言をもらいながら取組を進め、地域のノウハウとして蓄積させる



■中間支援機能の強化・振り返り

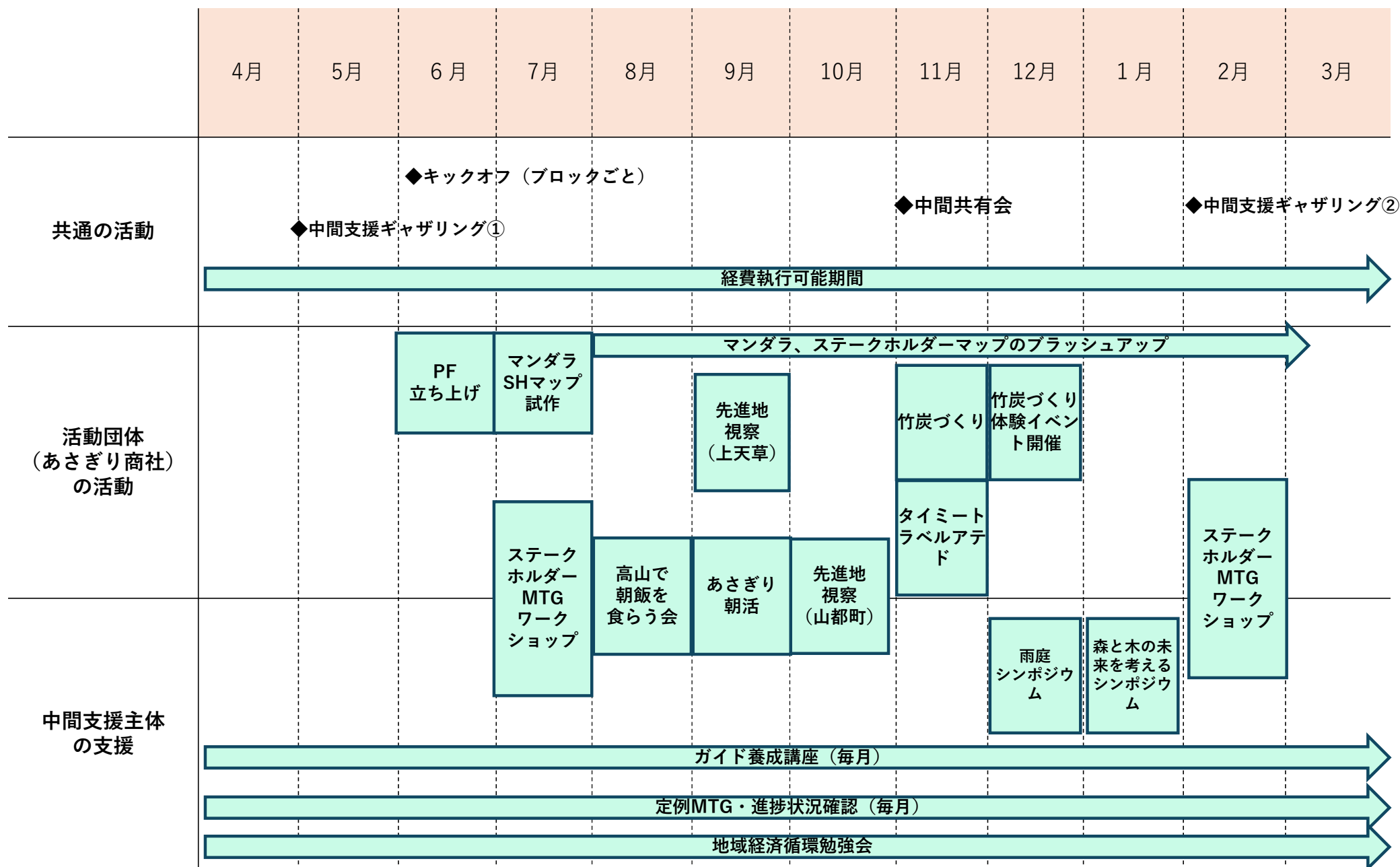
➤ 中間支援主体として目指すありたい姿

ビジョンである「地域課題を解決し、豊かで持続可能な地域社会を実現するための情報・ソリューションを提供し続ける知恵袋」として、肥後銀行系シンクタンクのネットワークと経済研究所としてのデータ分析を活用し、活動団体に適した連携先やデータを提供することで、地域づくり活動を促進する。

また、担当者レベルでは、活動団体を実際に動かしていくためのコミュニケーション能力や段取り力を伸ばしていきたい。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

ビジョンを描く、事業を生み出す、仲間を探す

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

地域内で連携可能性のあるステークホルダーがいる
あさぎり商社が本格的に活動するための起爆剤が必要

● 具体的な支援内容（打ち手）

地元の人にSHMで活動を周知。
ステークホルダー候補とあさぎり商社を引き合わせる。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

SHMを運営し、幅広い属性の参加者を集め、意見交換したことにより、協働による地域の課題解決の可能性を感じた。

● 中間支援主体としての気づき・成長

SHMの運営サポートをするにあたり、必要な打合せや段取りについて学ぶことができた。また、協働の可能性のあるステークホルダーとの接点を創出することができた。

活動団体の取組

● 活動名・時期

ステークホルダーMTG（7月）



● なぜそれを実施したのか（実施目的）

地域住民にあさぎり商社の活動を知ってもらい、協力を呼び掛けるため

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

キックオフを行ったことで、活動団体の活動に対する意識醸成につながったと共に、当研究所が呼びかけた参加者の放置竹林再生協議会とSHMをきっかけに協働するようになり、実際に竹炭づくり体験会を共同開催した。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル②

事業を生み出す、地域のビジョンを描く

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

事業を立ち上げるにあたり、何から始めればいいのかわからない。

- **具体的な支援内容（打ち手）**

あさぎり商社の持つ構想を実現する段取り、場づくりを行った。

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

1度コンテンツ化に取り組んだことで、自分たちでイベントの立案、実施まで行えるようになった。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

話を聞いて活動団体のニーズを引き出し、それを実現する方法を一緒に考え、実際に行った後の振り返りまでサポートすることができた。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

朝飯を食らう会の試行（8月）



- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

町の名前の由来にもなった「朝霧」を観光資源として活かす方法の1つとして実施。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

ステークホルダーと事業の試行を行ったことで関係性が強化され、あさぎり町プラットフォームの基盤づくりにつながった。

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
チェンジ・エージェント機能	変革促進機能	活動奨励	朝飯を食らう会の実行や視察先の紹介等、やる気を促すサポートを行った。
チェンジ・エージェント機能	資源連結機能	資源提供	ステークホルダーMTGで、活動の中心となって協力してくれそうな人材、組織を集めた。
チェンジ・エージェント機能	プロセス支援機能	コーディネーション	毎月MTGを行い、相談事や事務連絡の確認を行った。

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出したか

活動意欲があり、「とりあえずやってみる」精神のあさぎり商社の勢いを止めないよう、あさぎり商社のアイデアを実現するために必要だと考えられるネットワークや知見の提供を行った。

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

資源、情報、学びの場を積極的に提供する中で、活動するうえであさぎり商社の活動に必要な人や機会をつなげることができるようになった。

● R6課題だと感じたこと

- ・ あさぎり商社と一緒に活動してくれる事業のタネの中心となるメンバー探し
- ・ ステークホルダーが集まる継続的な場づくり

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- **地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるか。R7～中間支援主体として今後どのようにになりたいか。**

シンクタンクのネットワークと経済研究所としてのデータ分析を活用し、活動団体に適した連携先やデータを提供することで、地域づくり活動の促進を目指す。

現場に入り込み、活動団体を横に立って支えられる組織として成長する。

次年度は今年度培ったノウハウを踏まえ、今後の事業の見通しをつけられるよう活動団体の実態に即した情報提供や、実際に事業に取り組む機会を創出する。

- **活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）**

事業を具体的に検討し始める段階で運営側と実働側のそれぞれに移住者ではない地元の人も取り込んでいくことが必要である。地域で自走する事業に発展させられるように地域住民や事業者との合意形成をとりながら巻き込んでいきたい。

地域住民を巻き込んだ活動の事例を共有することで活動のイメージを持ってもらい、あさぎり町ならではの事業の方向性を定めていく。

- **地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと**

実行が得意な中間支援機能だけに偏らないように、他の中間支援機能による視点での活動団体へのサポート方法などを助言してほしい。